風俗女西遊記
2378
260

楚満人作
國安画

風俗文選 西遊記 前篇

子春
子英 共

東都書房
永壽堂新鐫

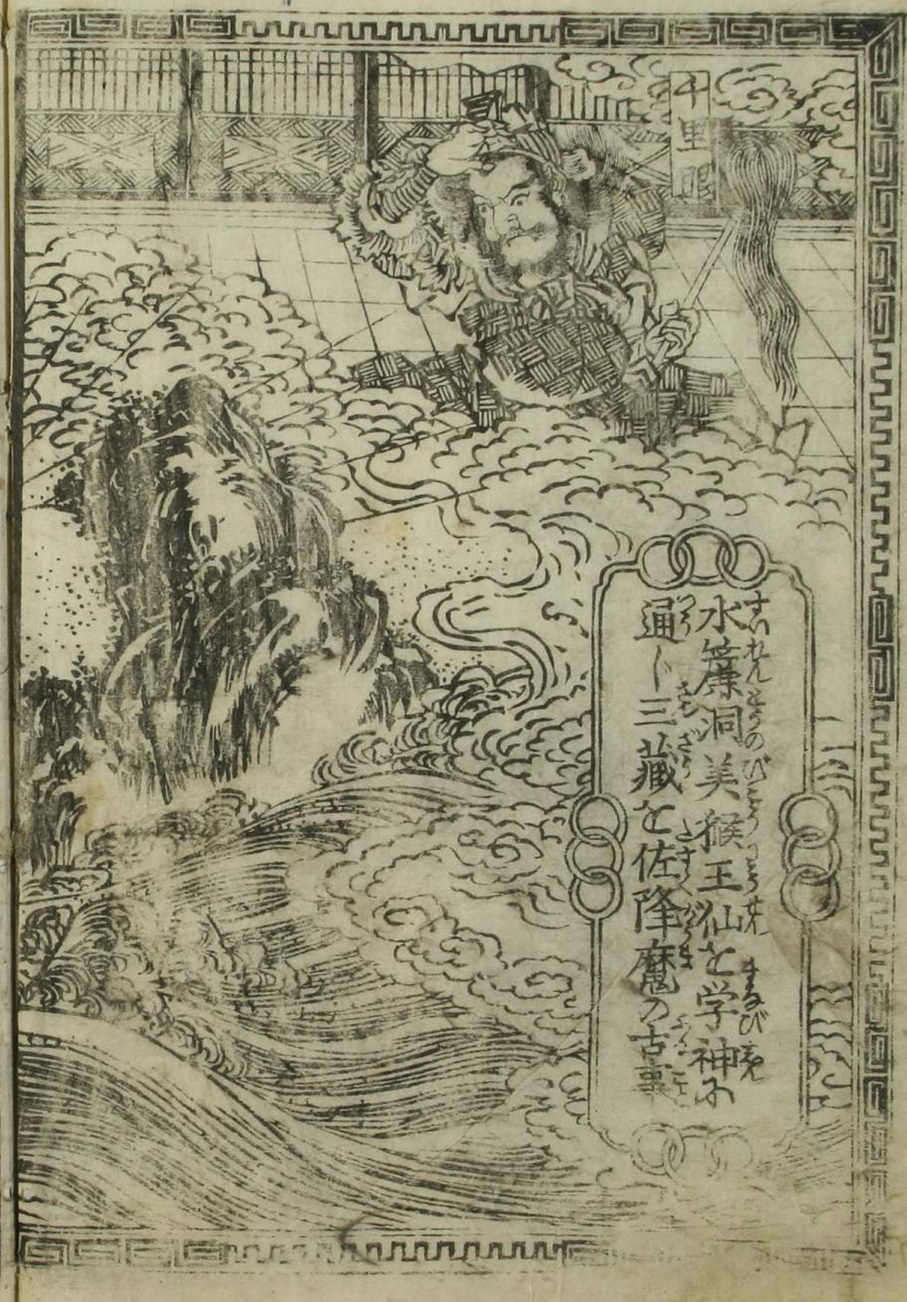
遠13特
2378
259

昔し廣々として周遍し底々として深きことそろ〻と光明遍照十方世界を食言八百里八萬里八彼西梓記大空東海安誤戒の罪深へ砂漠なるはさらなり其ホ空を世利賣ホ引用証も八百里此武藏埜の御ひろ〻ハ今を筆を鶏ぶかく東海の傲來國そも水簾洞の美猴王仙教を受て躬と夜〻孫行者と稱せら〻三藏尊師を佐つゝ浮屠典を求ため西天ホ赴くと中華人の文美を珍文漢語を和鮮て東都の自慢の赤本の部中に加ふる刻字貝女西梓記西梓原稿西邑から思ひ起して西邑の新著の漫級の作者八豆子の猪八市沙僧おわらで廣相の小説ゆの花押ハ三本たらぬ予が生得其拙を捨ハす御評判をうけむらごとれぞ書林の金斗雲を乘て三編も三編もぐ〻と祥永壽堂利潤黄金の八〇當をとるわらべ談を作者へ御ぞ〻の岩井丁子車の主人

歯磨精製所

文政十一子春新繪州紙の魁本

狂訓亭楚満人



水簾洞美猴王仙を学神ふ
通ゝ三藏を佐降魔の古事

三蔵
温良
仏則
百折
千磨の
苦心
終に
大業成
三姫

八戒
獣子の偽はる一個の
小女真贋直くして
勇義あり

遠くなり
近くなるみち
涙くもる
あかぬ名残の
なごり
なごり
沙弥僧

雲鬢
滑か
雪膚
濃ゆり一旦
柳眉を揚る折へ
烈然たる
丈夫也

あまどの三友
文隆
賀恵よ
海山の幸
多満人詠

外面如菩薩内心如夜叉。
賢愚邪正八男女共不隔。
ひらかやまと賢女鑑や列女傳

本町の市隠
小松耶戯

二の巻

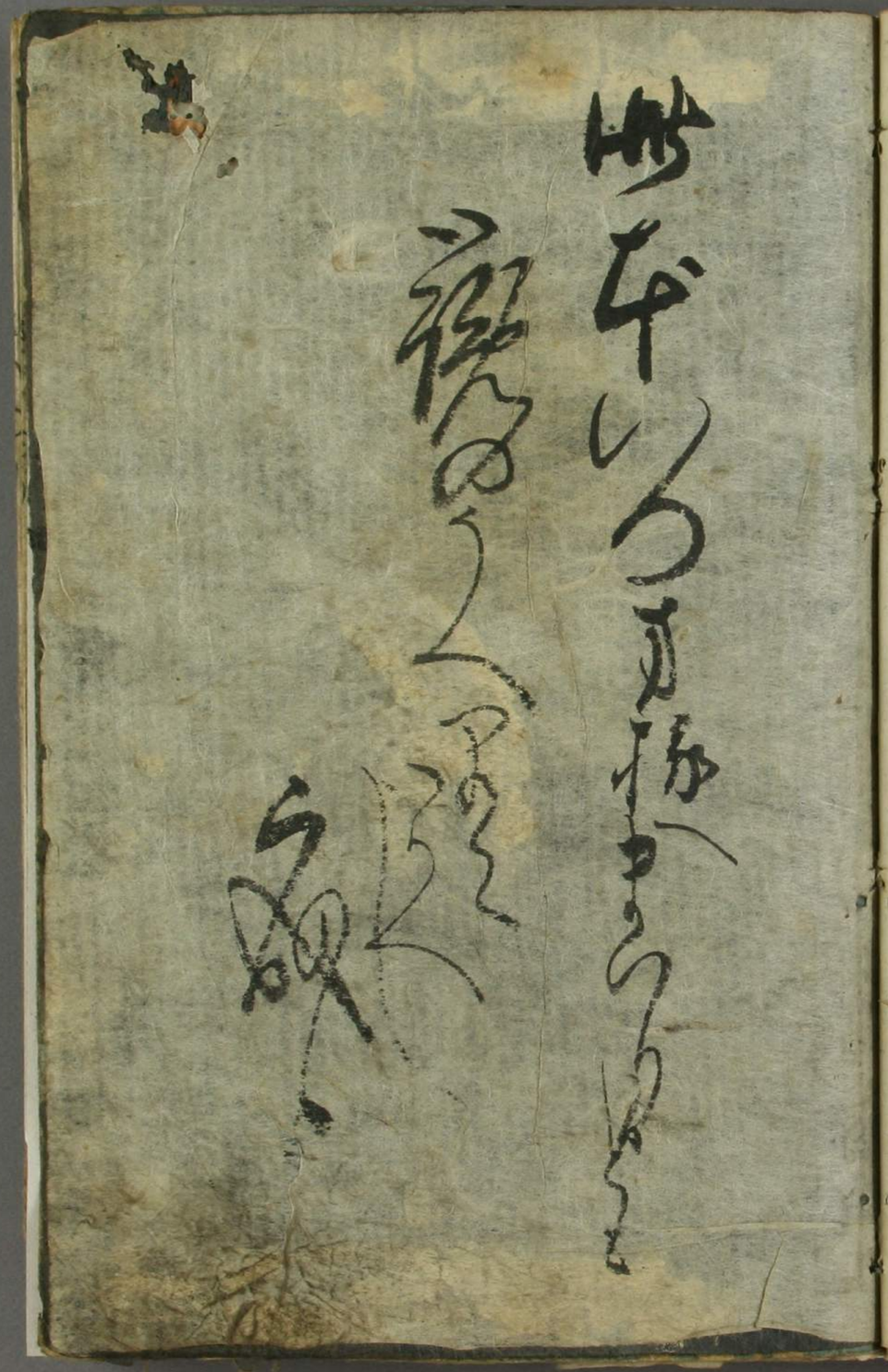
三の巻

[illegible]

一枚おいて次の画とつゞく

○さてもいとゝ
あやしきことのうらまさりたるこの
ちくびをさいりひさーのそのまま
川のやうにくくりさーくくりぶ
そのれいしたるりのそをうつ
ゆーてうすくくまりたるうつ
そのうねのうねくさけ
ひとこゝろうりていろ
うそのきぬうくふーうりくまび
こゝびとやらそれくいこのこゝーうぶ
すこそうちくそのうまーくさいこ
なすのごとくたるこのまとのうけーうこの日ハ
申の月申の日さるのとくうりーうばそのなを
えぶぶさるのびねこい後のひやくをさるの川なよ
ろりくでうくーやーうるのあひらーくうくうぶ
あうろるうらすもうるをくらーめりとすりこ
ねやくすこしせてーうよいこそうぞやうび
とくくすこうるどちくなまハありまゆゆ
りるくくるぶのくるをさるぶせーくぶやるくくるぶ
うろうさるをさちくのーめうりくまびせんくこ
ゆきこーのまスのむやこるをとあてこうこ
ろにあこるこりくまびーひくうくこびこうこ
こうれんをすぎてそすくこひこーのくをを
そのやうりのこうやくいくこのやうりや浦松氏とうのくくやめうこ

南仙笑楚満人作
歌川國安画
筆者音成



五渡亭楚満人作
歌川國安画

風俗をとる

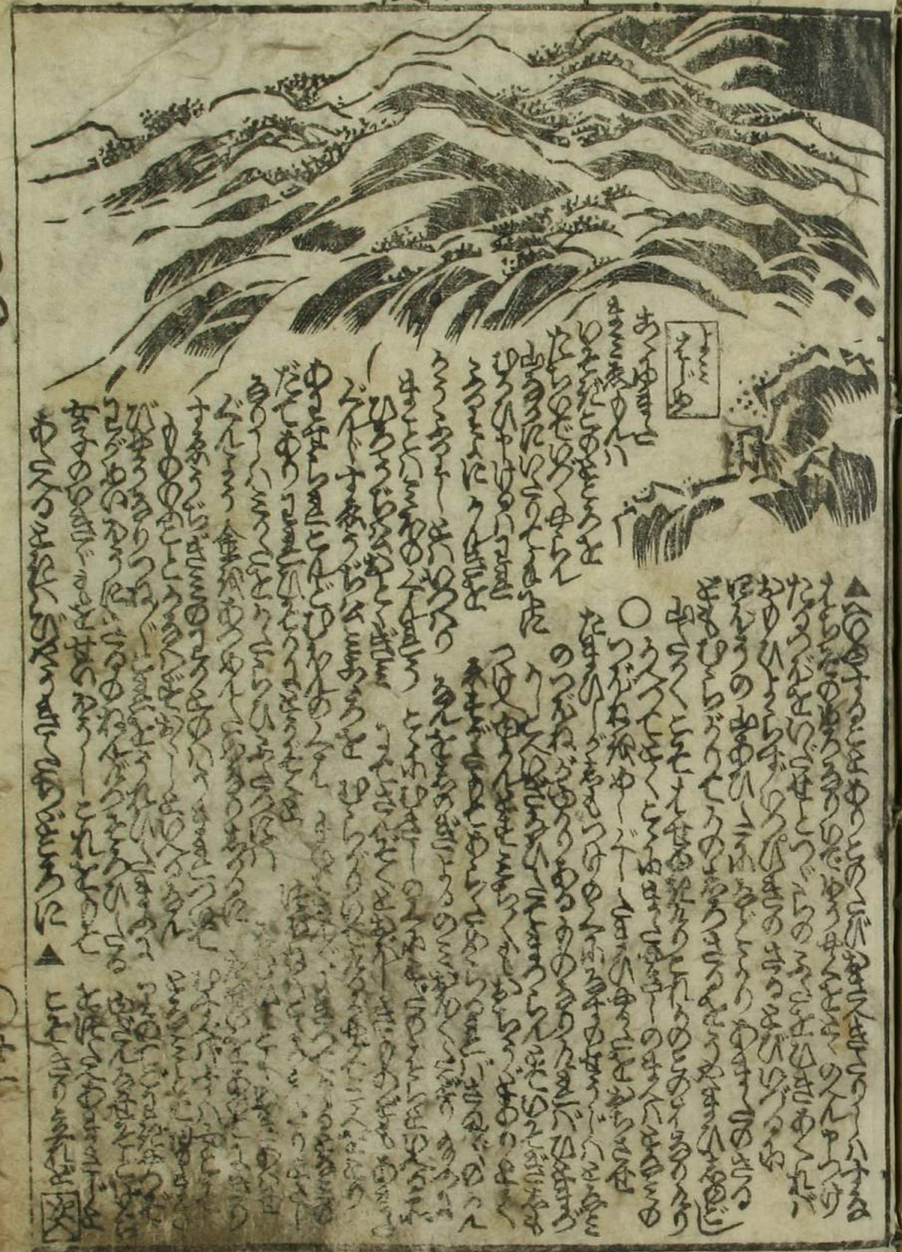
後藤人物

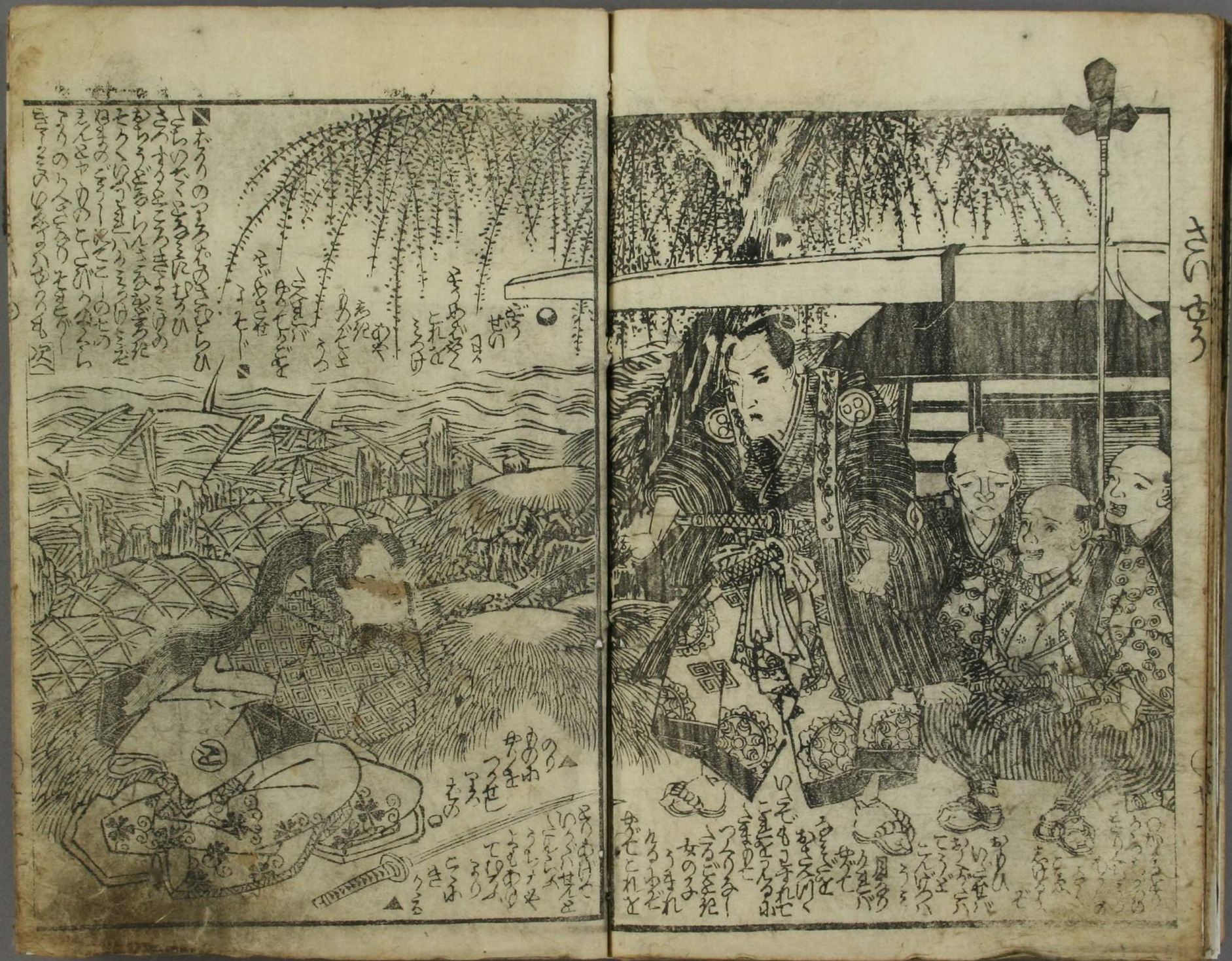
国安画

西宮弥兵衛

四の巻

赤岩裏甲山
裏見滝圖

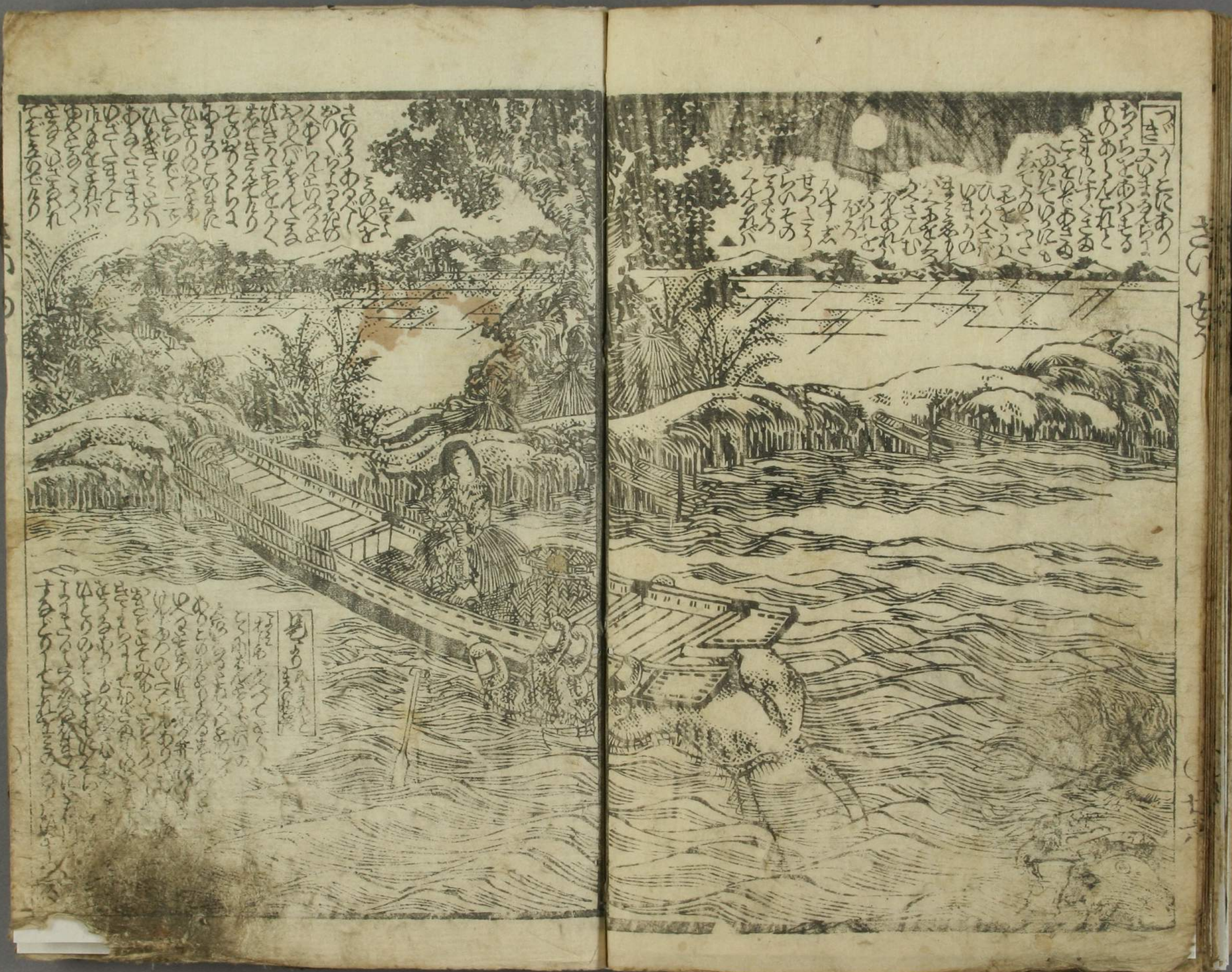




つぎき
た

六の巻

[illegible]



沙漠神龍変白馬
自齋書
鮫ぶ井の家の重器
荻原東溪の筆の白馬の圖
東溪星野氏於鎌倉烏川孝二惠考学ノ當時之名人也

文政十戊子 新雕繪草紙

代夜待白女辻占 全六冊 曲亭馬琴作 歌川國貞画

忠臣前々孝記 全六冊 歌川國貞画

繋馬七勇婦傳 四冊 南仙笑楚満人作 溪齋英泉画

大犬 柳亭種彦作 縁女の準

逢坂月 全六冊 五渡亭國貞画

正本製ト篇 六冊 柳亭種彦作 五渡亭國貞画

花角力戀乃百草 全六冊 志満山人作 歌川國信画

壁諭心の種本 全二冊 櫻川慈悲成作 英笑画

今昔虚實録 全六冊 歌川豊國画

風俗女西遊記 全 楚満人作 國貞画

美艶仙女香 坂本氏

清本問屋 馬喰町貳丁目 永壽堂 西村屋